

(体育)

## 「楽しく意欲的に学習に取り組む子どもを育てる」

### —体育科の学習を通して—

大阪市立大桐小学校 足立 紘一

杉田 翔

藪本 梓

#### 1. 研究主題設定の理由

本校は「自ら学ぶ態度や心豊かにたくましく生きる力を育てる」を学校教育目標に掲げて教育に取り組んでいる。

本校の子どもは「進んで運動する子、しない子の二極化現象」が顕著にみられた。そこで、平成27年度より、研究教科として体育科を取り上げ、主題「楽しく意欲的に学習に取り組む子どもを育てる」に沿って3年間の実践を進めてきた。

#### 2. 平成27年度の取り組み

「進んで運動に親しむ子どもを育てるための指導の在り方」について研究を深めることにし、3つのことに取り組んだ。

1つ目は、計画部、環境部、生活部の3部会を組織し、全教職員がいずれかの部会に所属した。計画部では、年間指導計画を見直し、低・中・高学年が2年間でさまざまな運動ができるように系統だった計画を作成した。環境部では、体育科に関する用具を点検し、体育倉庫の整理をした。生活部では、子どもたちの生活習慣の啓発や、体力向上のためのなわとびタイムの見直しを行った。

2つ目は、各単元の学習計画を複数の段階に分けた。はじめに、これから学習する内容について理解し、学習の進め方について見通しを持つ。次に、運動の特性に触れ、楽しく活動する。さらに、ルールを工夫したり、できそうなことに挑戦する。最後に、これまでの運動を生かし、まとめの運動をする。

3つ目は、子どもたちが学習課題を見つけ、解決していこうとする力を身につけるために学習カードを活用した。

#### ○平成27年度の取り組みの成果と課題

##### (成果)

- ・体育科の用具を購入し、年間指導計画に沿って体育倉庫の整理をすることで授業の準備がスムーズに進められた。
- ・基本的な指導計画を立てて学習を進めたことにより、学習の見通しを持てるようになった。
- ・学習内容に応じた学習カードを活用することで、めあてを意識したり、自己評価をしたりすることができた。また、作戦を考えたり、チームに合った練習をしたりするなど、楽しさを味わうことができた。

##### (課題)

- ・ひとりひとりの運動技能が伸びることによる楽しさを味わうことができたか。

### 3. 平成28年度の取り組み

ひとりひとりの運動技能の向上を目指し、副主題を「できる楽しさを味わわせるための場の工夫の在り方」とし、子どもたちの実態や単元の特徴にあった指導法の工夫や個々の課題を解決するための場の工夫に重点を置いた。また、より効果的になるように、学習カードや掲示物の活用方法についても研究を深めた。

#### ○ 平成28年度の成果と課題

(成果)

- ・具体的な支援の手立てや場の設定をしたことで、多くの子どもが楽しみながら運動に取り組めた。
- ・運動に苦手意識を持っていた子どもに「もっとやりたい」「できてうれしい」といった達成感を味わわせることができた。

(課題)

- ・より意欲的に取り組めるように、指導者の発問を工夫し、子どもたち同士の学び合いを重視した学習を進める必要性を感じた。

### 4. 平成29年度の取り組み

副主題を「子どもとともに創る体育学習と場の工夫の在り方」とした。場の設定の工夫については継続し、子どもたち自らが課題を解決するための方法を考えたり、自分に合った練習の場を作ったりする力を伸ばすため、指導者側からの発問を工夫することに重点を置いた。

#### ○ 平成29年度の成果と課題

(成果)

- ・発問を工夫することで、課題を明確にすることができた。
- ・自主的に運動に取り組もうとする意欲を高め、自分たちで授業を創り上げていく達成感や充実感を感じさせることができた。

(課題)

- ・助言や発問の仕方、児童に考えさせる時間と運動量の確保のバランスの取り方に難しさを感じた。

### 5. 3年間の研究を終えて

#### 研究の成果

- ・三部会を組織したことで、職員一人一人が体育について考え、学校全体で体育学習に取り組むことができた。また、各学年の意見を取り入れやすくなった。
- ・スモールステップを意識した学習計画を立てたことは、少しずつ技能を向上させることにつながった。子どもが楽しみながら、安心して学習を進めることができた。
- ・場の設定や学習カードを工夫したことにより、意欲的に学習に取り組むことができた。また、めあてを明確にしながら運動しようとする態度が育った。

#### 今後の課題

- ・子どもとともに創り上げていく学習を、低学年のうちから積み重ねていく。
- ・自分たちで創り上げていく学習展開を、他教科とも結びつけていく。